

# 認知症 接し方を落語で

## サポーター養成講座 介護亭楽珍さん一席

**渋川** 落語を通じて認知症の理解を深める「認知症サポーター養成講座」が、渋川市の赤城公民館で開かれた。約60人がユーモアにあふれた創作落語を楽しみながら、認知症の人への接し方を学んだ。写真。

安中市の特別養護老人ホームなゆたの副施設長で、「介護亭楽珍<sup>かいごていらくちん</sup>」

の名で活動する内村英徳さん(59)が認知症をテーマにした創作落語を披露。軽快な語り口で笑いを誘いながら「いてくれてありがとうと伝える」「堪忍袋の中にとめた自分の気持ちを外に出してリフレッschussする」などが大切だと訴えた。同市赤城地域包括支援センターが主催。同センターの講師を務めるキャラバン・メイトが認知症の種類や症状、接し方などについても講演した。(赤尾颯太)

